

授業者ブロックから

仮説1「学習過程の統一」1BY1をはじめ、耳を豊かにすることを重点に授業を考えた。言葉をたくさん耳に入れることを意識した。

仮説2「必要感」必要感の実証になっていたか。どのような場面を想定すればよいのか。

授業者反省

- ・たくさんの英語を聞かせることを重視した。
→最初は分からなくても、1BY1のやり取りを繰り返す中で理解させていく。また Small Talk でも積極的に英語に触れさせる。
- ・小学校の英語の学習でどのレベルまで求めるのか。
- ・am/pmは指導案にはなく、授業の中で急遽取り入れたがそれはどうか。
- ・can do リストは作成すべきかしなくてよいか。

研究協議まとめ

低学年・1BY1は何度も英語を聞くことができてよかった。

- ・Small talk は単語や英語の文を聞けていてよかった。
- ・誰とでも話せる雰囲気よかった。
- ・センテンスはシンプルでよかった。

△子供同士の発表の場を設けるとよかった。

△アクティビティでは、前後左右斜めとやる順番を事前に決めておくとよかった。

中学年・ジェスチャーが分かりやすくてよかった。

△アクティビティでは、全員が歩き回って相手を見つける方法と、半分の方は座って待つ方法があり、どちらの方法がよかったのか。

△1BY1は2時間目で行う必要があるのか。

△座席の配置をどうするか。

高学年・1BY1の取り組みはよかった。しかし簡単すぎると飽きてしまう。

→飽きるほど取り組むということは、児童がその表現に慣れてきているということになる。

- ・気持ちを表す表現を取り入れるとよかった。
- ・What time is it?の手本の発音が早かった。
→児童は雰囲気を感じ取ることができていた。
- ・何のために聞くのか意識づけができていた。

武蔵台小・安心感を感じさせるやり取りや雰囲気になっていた。

・テンポがよかった。

△BESTをもう少し意識させるとよかった。

△時間を尋ねるという場面の設定はどのようにすればよいのか。

- ・バスを使うという場面設定は4年生にはなじみがないのではないか。

参観者・やりとりが温かかった。

- ・Small talk で、なぜダイアンが悲しんでいたのか、理由をみんなで確認することができればよかった。
- ・Small talk で、好きなスポーツがない児童は、I don't like sports. が言えてもよいのでは。
- ・am/pmでは、太陽と月など具体的に対応するものを示せると理解しやすい。

△掲示物の英語などの最初の文字は大文字で表記する。(Sunday など)

指導講評(太田先生)

- ・ **生きて働く知識技能** →持っているだけの知識だけで終わらず、それが使えるようになると技能となる。
- ・ **目的・場面・状況**を頭の中で映像化できる。子どもの生活に身近であるのが理想。
- ・ What time is it? は日常生活で意外と使わないが、今回の授業ではよく設定されていた。あとは場面をイメージさせ、「あるある！」と思わせることを大切にする。
- ・ 別の場面で言葉に出会うことが大切である。例)担任がわざと時計を忘れ、子どもに言わせる。等
- ・ Have to ～ は知識で使うタイミングがあまりなく、学校で教えたい。これを使うことができることが「生きて働く知識・技能」である。
- ・ 「児童が安心して取り組む授業」とは何か。
逆に何をしたら不安になるか。→話すことを急ぐ、「文で言わなければならない」など正しさを求められる、聞き漏らしてはならない。めあてが分からない。
- ・ 目的・場面・状況で「あー！あるある！」と推測させる。掲示物等から聞いていることを推測させる。
- ・ 「sad」を日本語で説明しない。子どもは状況から推測する→曖昧さに耐える子どもを育てる。
- ・ 子どもにどのような学習者になってもらいたい、細かく知りたいと思える子どもを育てたい。
- ・ 評価規準については「分かりやすく伝えようとしている。」という部分を振り返らせてもよい。ゆっくり話す、繰り返させる、強調させる。相手に時間が分かるように伝えることが大切。
- ・ コミュニケーションではすらすら話せなくても、話すことを急がない。そのやり取りを大切にする。

○子どもと教師のやり取りの例

「I like swimming. How about you?」(AET: I like badminton.)

「S1, do you like badminton?」(S1: No.)

「No, you don't? What sport do you like S1?」(S1: …?)

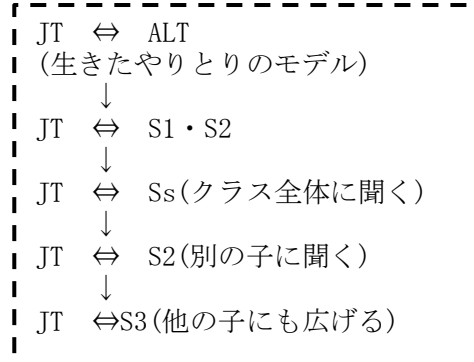
「for example, soccer, swimming, basketball, …」(S1: バスケ)

「Oh! You like basketball!」

「I like basketball too. (全体に投げかける)」(Ss: 反応)

「How about you, S2? What sport do you like?」

…受け止めの表現で、子どもは「何か言えば反応してくれる」と思い、安心して発言することができる。



- ・ 子どもを安心させるために、**自己決定理論「内発的動機付け」**を大切にする。
- ・ 「有能さ」自分はできていると感じさせるために、振り返らせ、以前の自分と比べさせる。
- ・ 「自律性」自分がやっていると思わせるために、自分で決めさせる、選ばせる。
- ・ 「関係性」周りの人が認めてくれると感じることができる雰囲気づくり。